



# 同窓会通信

第5号

同窓会報

2009. 4月吉日

## ～巻頭言～ 島根県立大学 学長 本田 雄一



同窓生の皆様におかれましては、各々の分野で益々ご活躍のことと拝察し、お喜び申し上げます。

私こと、此の度、平成21年4月1日付で公立大学法人島根県立大学の理事長、学長を拝命し、着任いたしました。もとより、微力ではありますが、これまでの国立大学法人島根大学長としての経験を生かし、全身全霊を傾けて、大学統合と法人化を果たした新しい公立大学法人島根県立大学の効率的な運営に努めて参ります。同窓生の皆様にはなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本学は公立大学のトップクラスとなる高い就職率を維持するとともに、文部科学省が優れた大学教育を支援する「大学教育改革支援「GP」(グッド・プラクティス)」事業に単年度で5件も採択され、継続分を合わせれば7件の「GP」事業が進行中という高い評価を受けています。今後もこのような高い水準の教育活動、研究活動を維持し、発展させていきたいと願っています。

本学は3大学の統合により、島根県立大学の建学の理念である「諸科学統合とその社会における実践」に加え、三つのキャンパスが共通して掲げる三つの基本的目標を定めました。第一は、「学ぶ意欲を大切に、高めていく大学」になること、第二は、「地域に根差し、地域に貢献する大学」を目指すこと、第三は、「北東アジアにおける知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学」に発展することです。専門分野を異にする三つのキャンパスが共通の理念で結ばれ、地域社会との密接な連携を通じて、地域社会に貢献できるとともに、グローバル化が進行する現在の世界に通用する人材を養成したいと考えています。

「知識基盤社会」と言われる21世紀にあって、大学は社会に貢献し、社会は大学を支える双方向の関係を構築することが求められています。同窓生の皆様は本学にとって最も身近な社会的存在です。大学は法人化し自立的な運営が可能になり、もはや経営的な感覚が必要になっています。皆様にとって終生の母校であり、同時にいつでも立ち戻ることが出来る「母港」である島根県立大学は、今後とも皆様に大学の様子や教育研究の方針等をお知らせし続けたいと考えています。同窓生の皆様には社会の各分野から様々な情報をお寄せいただくとともに、後輩諸君の就職支援等について特段のご助力を頂きたいと願っています。

皆様の母校が今後も地域社会にとって欠くことのできない高等教育、研究機関として発展できるよう物心両面にわたるご支援をお願い申し上げます。同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

皆様の母校が今後も地域社会にとって欠くことのできない高等教育、研究機関として発展できるよう物心両面にわたるご支援をお願い申し上げます。

同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

### CONTENTS

巻頭言 本田雄一 新学長	P1
学長退任挨拶 宇野重昭 旧学長	P2
同窓会役員あいさつ	P2
各支部の動き	P3
卒業生用SNS (Kendai'sBar)登録のお願い	P5
会員の窓	P6
県大ニュース	P10
平成20年度予算・事業計画	P11
同窓会役員一覧	P12
事務局から 会費納入のお願い	P12



今号より紙面を  
リニューアル!



## ～退任挨拶～ 『退任に臨んで』 宇野 重昭 前学長



建学してから9年間、個人としてはいろいろなものを犠牲にして、夢中で駆け通してきたように思う。新しい県立大学を創るということが、こんなに大変だとは予想していなかった。

楽しいことより苦しいことの方が、はるかに多かった。でも、大学の指導部に居るものは、教育の現場に触れ続けていなければならないという信念から、業務過重のなかにあつて、あえて一年生の社会科学方法論を4年間担当した。その私の講義に出席した学生諸君がいまやすべて卒業生とは感無量である。この9年間を振り返ってみると、この4年間が一番楽しかった。

しかし教師としての4年間は、所詮社会人としての経験の4年間である。これに対して学生諸君の学生時代の4年間は、かけがえのない青春真っ最中のなかの4年間である。この間の喜怒哀楽は、諸君の記憶のなかに刻み込まれているに違いない。学校というものは、そこに働いた人より、学んだ人にとって大切な場となる。

最近私は35年間教授として働いたことのある成蹊大学の40周年記念祭で講演をし、懐かしいかつての同僚と、忘れることのできない数多くの卒業生諸君と再会した。日本社会の常識として、すべては教職員が中心となって進められた。記念撮影のときにも旧教員が中心に座り、昔の学生だった卒業生(その中には元の安倍総理大臣も含まれていた)は、教員の後列に立って並んだ。

しかし、実質的に旧交を温め、雰囲気を読み、現在在校生諸君の歓声を浴びたのは卒業生諸君であった。卒業生にとって、母校はあくまで帰属意識の強い母校であり、その母校は卒業生の支えによって存続しているのである。

どうか卒業生諸君にとって島根県立大学はあくまで母校であり、そしてその島根県立大学の存続は、みんなの支えのなかにあることを忘れないでいただきたい。卒業後のご多幸を祈る。

## 同窓会役員あいさつ 佐々木 眞生 島根県立大学同窓会副会長



花の便りもあちこちで聞かれる時候になってまいりました。みなさまにおかれましては、ますますご健勝のことと思います。また、平素から同窓会運営についてご理解とご協力をいただいておりますことを、感謝申し上げます。

さて、早いもので第一期生である私が島根県立大学を巣立って5回目の春がやってまいりました。また、大学に入学してから9回目の春とも言えます。9年前は、生まれたての赤ちゃんのようだった大学も、着実に歴史を重ね、大きく立派に成長してきたことを心から嬉しく思っています。

そんな中、島根県立大学は大きな節目を迎えました。開学当初から先頭に立って大学を引っ張ってくださっていた宇野重昭前学長が、3月に退任されました。私は、現在浜田市で報道の仕事をしておりますが、この節目に大学の9年間で宇野前学長に振り返っていただきたいと思い、インタビューをさせていただきました。その中でこの9年間で築いてきた個性を大切にして、自主自立のもとさらなる独自性を見出していけば、島根県立大学は今後ますます発展していきたくらうとおっしゃられていました。少子化に伴い大学全員入学時代を迎え、島根県立大学の真価が問われることとなりますが、宇野前学長のお言葉を心強く感じました。今後も本田学長の元、力強く歩みを進めていかれることと思います。

私にとって島根県立大学は、人生を豊かにしてくれた大切な学舎です。そこで尊敬出来る先生方に出逢い、個性豊かな友人に出逢い、そして慕ってくれる後輩にも恵まれました。同窓生のみなさまも同じ思いだと思います。同窓会は、この繋がりを大切にしていきたいと思っています。嬉しいことがあった時はもちろん、辛く悲しい時こそ同窓生として寄り添えるような同窓会であり続けたいと思っています。今後とも変わらずご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。



## 各支部の動き

**新支部設立！****東海・北陸支部が設立されました！**

平成20年11月29日 土曜日に名古屋市のアサヒビアレストランスーパードライ名古屋にて「東海・北陸支部設立総会」が開催されました。

総会当日は大学からは3名の来賓をお招きし、1期生2名、2期生4名（ほか子どもさん1名）、4期生2名、5期生6名の計14名の卒業生のみなさんが参加されました。

わずか数時間の会でしたが、久々に集まった面々にとても盛り上がり、その後は3次会・4次会まで...（行ったようです）

総会開催に向けて、忙しい中準備等をしてくださった役員のみなさん。本当にお疲れ様でした！参加者の多くから、ぜひ来年も盛り上げていこう！との声が相次いで出て、散会しました。

**【東海・北陸支部役員はこちら】**

支部長：長坂 真佐美（2期）

副支部長：赤松 未来（旧姓 川本、2期）

理事：多幾山 敏行（1期） 佐藤 精治（4期） 大指 春奈（5期）

杉山 敦宣（5期） 山本 寛（5期）

**東日本支部**

平成20年5月24日土曜日に、東京都千代田区にある学士会館にて「東日本支部総会」を開催しました。

大学側からは、3名の来賓をお招きし、1期生から5期生までの卒業生を含む総勢31名のみなさんが参加されました。

今回は総会を2部構成とし、1部は浜田市出身で関東地方に在住する方々で組織する「在京浜田会」総会に参加し、2部は場所を移して支部総会を開催しました。「在京浜田会」への参加については、浜田市と県大との強いつながりに象徴されるように、参加者のみなさまから大変親しみをもって接していただき、参加卒業生の中からは、「仕事に役に立って良い」といった声が最近聞かれるようになってきたほどです。



本年度は6月から7月にかけて総会を開催します。追って案内をお送りします。みなさんぜひご参加ください！！



## 各支部の動き

## 関西支部



平成20年6月8日曜日に、大阪市にて関西支部役員による会合を開催しました。大学側からは、3名の来賓をお招きし、1期生から5期生までの卒業生12名が参加しました。今回、関西支部も浜田市出身の関西地区在住者から組織される「関西浜田会」に初めて参加しました。総会中は卒業生と浜田会参加者が多く語り合っており、終始和やかに進みました。その後同窓会関西支部の会合を行い、来年度の総会開催に向けてできる限り皆が声を掛け合っということになり、散会しました。本年度は6月末に総会を大阪市内にて開催予定です。ぜひ皆さんご参加ください！

## 中国・四国支部

平成20年11月29日 土曜日に、県立大学内ビューラインにて「第2回中国・四国支部総会」を開催しました。昨年度の設立総会内で、「ぜひ来年はお世話になった先生方とお会いして話したい！」という声が多く寄せられ、今年度は県大で開催しました。当日は松岡名誉教授、吉塚教授、村井教授、井上定彦教授、田嶋教授にご参加いただき、懐かしい面々との再会に、時間を忘れて賑やかに話が進んでおりました。

卒業以来初めて大学へ来たという方もいらっしゃったようです。当日は快晴に恵まれ、県大と言えばココ！とも言われるビューラインから見る浜田市内の景色をバックに、最高の時を過ごすことができました。

来年も11月から12月にかけて総会を開催予定です。ぜひ皆様ご参加ください！



## 支部のお知らせ

各支部の総会は毎年1回開催します。

東日本支部は5月から6月、東海支部は11月から12月、関西支部は6月、中国・四国支部は11月から12月頃を目途に開催します。皆様、ふるってご参加ください！

また、東海・北陸支部の設立により、まだ支部ができていないところは九州・沖縄地方のみとなりました。

九州支部(仮称)は、H21年度を目標に設立する予定です。

九州・沖縄地方にお住まいのみなさん！ 県大の輪を全国に広めていく絶好の機会です。

転勤等で九州地方へ転居された方がいらっしゃいましたら、ぜひ同窓会事務局 石倉(Tel 0855-24-2202)までご連絡ください。



Kendai's Bar

## 卒業生用SNS 「Kendai's Bar」 へのお誘い！

前号でもお伝えしておりました、本学卒業生専用サイトとなるSNS「Kendai's Bar」が12月にオープンしました。

このシステムは県大卒業生、在学生ならびに教職員しかアクセスできないようになっていますので、安心してお使いいただけます。また、皆さんご存知のmixi(ミクシィ)と類似した作りとなっていますので、大変使いやすくなっています。携帯電話からもアクセスできるので、とても便利。

「友人だった人がどこに行ったか分からない」、「大学時代に戻ってサークルなどのコミュニティを立ち上げたい」といった使い方により、このシステムで久々の再会もあるかもしれませんよ。また、先生方への連絡や、再就職相談、卒業生アンケート、その他近々eラーニングもできるようにしていきます。

まだ、登録していないみなさん！結構おもしろい機能がありますよ！ぜひ登録いただき、ご活用下さい。

## 【登録の流れ】

1. 「氏名」「ふりがな」「入学年度」「メールアドレス」をご明記いただいた上で、メールのタイトルを「SNS参加希望」として以下の大学事務局あてメールアドレスへ送信。

メールアドレス：**career\_all@u-shimane.ac.jp**

※アンダーパー

※ハイフン(uとshimaneのあいだ)

## 注意！

招待メールが迷惑メールフォルダに入る可能性があります。注意してください。

2. ご記入いただいたメールアドレス宛に右のような招待メールを「Kendai's Bar」から送信します。

## 【招待メールの文面】

こんにちは！Kendai's Barからのお知らせです。

大学事務局さんがあなたを  
Kendai's Barへ招待しています。

.....

3. メール中に記載された登録用のリンクをクリックして、利用規約をご確認の上、ニックネーム（日記や掲示板等で公開される名前です。ご自由にお付けください）、パスワード等必要事項をお決めいただければ登録完了です。

4. メールアドレスとパスワードでログインできます。メッセージ送信、日記、掲示板、ブックレビュー、スケジュール管理、コミュニティ管理など、機能はいろいろ。皆さんそれぞれのお楽しみ方でどうぞごゆっくりと…

## 【ログイン画面】



## 【ログイン直後のトップページ】





## 会員の窓(各期のみなさまの近況)

### 朴 美洋(1期生、大阪府在住)

#### 「社会人になってからはじめての趣味」

私は第1期生として大学を2004年に卒業し、社会人となりました。

卒業してもうすぐ6年目を迎えようとしておりますが、社会人になってからはじめての趣味が2つあります。「スノーボード」と「ジョギング」です。仕事からハードな毎日を送っているのですが、今はこの2つの趣味と韓国ドラマを見る事、たっぷり睡眠をとる事、よく食べる事が元気の源となって頑張っています。

「スノーボード」と「ジョギング」は職場の方にお誘い頂いたのがきっかけです。社会人になるまで運動は全く苦手だったので、学生時代の私を知る友人がこの趣味を聞いたら驚くと思います。

「スノーボード」は初めてから今年で3シーズン目を迎えました。今までに北海道、信州、福井、地元では大山大山で雪山の滑走を楽しんでいます。今更ながら、大学時代からはじめていけばスノーボードを通じた仲間もできたのに、と残念に思う事があります。

「ジョギング」は昨年の11月頃からはじめました。職場の方と3名で小さなマラソンクラブを設立しました。現在、私は大阪に住んでおり、毎週末に大阪城公園まで自転車で行き、お城

の外堀をゆっくり走っています。当初は1周を歩きながら走るのがやっとでしたが、今では何とか3周走りぬく事ができるようになりました。今後は4周走りぬく事が目標です。また、ジョギングは個人プレーのため、普段は一人で走っているのですが、部活と称して月に1回、大阪城公園に集合し、部員全員でジョギングを楽しんでいます。3月15日には方々より応援をお願いし、チームを結成して大阪城リレーマラソンに挑戦します。チーム名も決め、オリジナルTシャツも作り、間もなく開催されるリレーマラソンとその打上げを楽しみにしています。

社会人になり会社で働くということは、学生として毎日学校に行くのとは全く違うものなのだ、ということを実感します。新人の頃は、毎朝会社に行くとかクタクタになって帰宅し、休日は一歩も外に出ず体力を温存させたいと考えておりました。しかし、多忙な毎日ではありますが、5年も働き徐々に社会人生活にも余裕が出てきた今、仕事とプライベートにメリハリを付け、プライベートを充実させる事がいい仕事につながる、ということに気がきました。今後はこの2つの趣味をきっかけに同窓会関西支部の方々と親交を深めていけたらいいな、と思います。

### 岩藤 祐一(3期生、山口県在住)

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私が、大学を卒業して早3年が経とうとしております。最初に、私の仕事のお話をしますと、みなさんが在学されていた浜田から西へ約100km、明治維新始動の地でおなじみの山口県萩市でJA職員として、日々仕事に励んでいるところです。

そんな中でいろいろ経験し、大学時代以上に勉強している(つもり・・・)毎日ですが、その経験の中で印象深かったのは、萩中心街から北北西に約45km沖合にある見島(この間、芸能人の松方弘樹さんが、300kg超という大台のクロマグロを釣り上げて、マスコミに取り上げられたあの島)に移住しての勤務でした。就職して1年間は本所の事務をしていたのですが、ある日突然、島に転居しての勤務という辞令を受け、大学時代以来の一人暮らしを再開するとともに、離島での生活ってどんなやろう?という期待と不安に駆られました。

しかし、実際島に行ってみたら、その不安は、すぐに解消されました。島の方は、本当に温かく接してくれて、本土で食べるものを上回る「イカ刺し」を頂いた日にはえらく感動してしまいました。それだけじゃなく、国の天然記念物「見島牛」

の存在を再認識することができました。全国的には、「松坂牛」や「神戸牛」が有名ですが、牛に対しての付加価値から考えてみると、「見島牛」も負けてはいません。見島に行くまでは、JA職員でありながら、その知識がほとんど無かったのですが、島で働きながら「見島牛」が外国種の影響を受けていない和牛では、日本最古という事を知るとともに、断崖絶壁のところ、飼育され上質な肉質になり、頭数も数少なく種の保存が難しいのでその希少価値から、島の人たちが保存会を立ち上げ、苦勞され生育されているのを肌で感じました。

現在では、再び萩中心街で働いておりますが、出張でもたびたび訪れますし、この体験は、一生忘れることは無いでしょう。また、先日開催された第2回同窓会中国・四国支部の場でもこのエピソードを(酔っぱらいながらも・・・)話させていただきました。この文章を読まれている皆さん、同窓会活動への積極的参加はもちろんの事、機会があれば、見島に行ってみてください。きっとあなたにとってかけがえのない体験ができますよ!!



## 会員の窓(各期のみなさまの近況)

### 王 姝文(4期生、東京都在住)



2007年3月、浜田の桜が初咲の頃に私は島根県立大学に卒業して、独りで東京に出てきました。2年後の3月現在、私は中央大学の法学修士号を取得し、4月からの博士課程に向かって着々と準備しております。東京は繁栄な大都市、ここで私は今まで思ったこともない物質的な豊かさを体験し、様々な人間と出会いました。これで幸せ、そしてこれからも東京で幸せになれるのでしょうかと、時々思いました。一人の夜中で私は、国際交流会館の窓外に飾られている綺麗な星空、青空と溶け合った浜田港の海岸線、浜田の何処でも感じられる爽やかな海風、そして、大学の先生、同期、浜田の人々の笑顔をよく思い出しました。その思い出は常に私の迷いの中の心を温めています。

顧みると、県大での4年間は私の人生にとって最も重要な時期でした。県大時代に、私は大学主催の活動の参加を通じて、日本人、外国人を問わず、数多くの友達ができ、国際交流の大切さを深く感知しました。加えて、大学授業の受講、毎年数多くのイベントを参画する経験で、従来の弱い性格を一変し、異国の文化や人々と触れることにも大好きに

なり、自らの国際性、行動力の形成を助成しました。私にとっては、浜田は故郷、県大は私を育った我が家です。

これから私は、博士課程で学術研究を進む同時に、中国の公認弁護士資格を取得するつもりです。そして、現在既にその目標に向かって動いております。近い将来に、私は身につけた法律知識を生かし、日中両国間の国際弁護士として、国際社会に貢献できるように頑張っけてゆきたいと思っております。

我が県大は、非常に学生の個性育ちを重視し、異文化交流に注力している大学で、在学生の皆さんから、是非この貴重な時間を惜しんで自分の将来像を描きながら、県大で有意義な学生生活を送って頂きたいと思っております。

写真左：王 賀さん(6期生)

写真中央：王 姝文さん

写真右：王 曉雪さん(4期生)

### 丸本 光明(5期生、北海道在住)

#### 「～北の国から～近況報告」

大学を卒業し早1年が経とうとしています。

現在、私は東京での研修を終えて、北海道帯広市に配属され、一般店営業をしています。日々、保険代理店を訪問し、保険の提案や代理店経営のサポート、お客様対応を行っています。社会人1年目、学生として生活していた頃とは比較にならないほど忙しい生活を送っています。初任地が初めての地であり、県大に入学した時を思い出します。人柄や考え方、習慣が全く異なり、土地勘も無く、地図片手に営業し仕事を少しずつ覚えていきます。

卒業以来、5期生や後輩とは頻りに連絡を取り合い、集まっています。昨年元旦は、5期生7人と浜田で集まりました。浜田は卒業時と何も変わり無く、懐かしいなと思いました。皆が違う会社に入り、違う悩みや職場環境があり、面白いと思うとともにそれぞれが成長し、社会人生活を送っているなと感じました。ふと感じたことは、県大生が唯一共通して持っているもの。「雑草魂」があると感じました。何度

踏まれても立ち上がろうとする気持ちは共通していると思います。

私の今年の目標は担当している仕事を全て完結させることです。そして、目標としている先輩社員に追いつくことです。

会社人生、始まったばかりです。挫折しそうになった時、悩んだ時、相談できるのが学生時代の友人であると思います。卒業しても頻りに連絡を取り合いたいと思います。今後、今の在校生が全国各地に散らばり島根県立大学の名前が知れ渡る事を期待しています。北海道支部同窓会を開催しましょう。

皆さん、北海道へ来ることがあればご一報ください。地図で見る北海道の真ん中あたりはご案内できますので。



## 卒業生のみなさまへお願い

この同窓会報では、毎号卒業生のみなさまへ近況を自由に書いていただいております。

ぜひ「私も書きたい!」という方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局の石倉までお知らせください。

『私、結婚しました!』『子どもが産まれました!』『最近ハマっていること』などなどいろいろな視点から書いていただきたいと思います。

併せて写真も1枚データで送付いただきますと喜びます!

また、先般3月に卒業した6期生のみなさんを合わせますと、県立大学を卒業された方が約1,200名となります。

皆様方のご連絡先は、個別に変更連絡をいただいたり、卒業生アンケート等により毎年更新させていただいておりますが、転居等により宛先不明となってやむを得ず郵送物の送付先をご実家にさせていただく方も年々増えてきています。

住所等変更がございましたらどうか事務局までご一報いただきますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 【連絡先】

〒697-0062 島根県浜田市野原町2433-2

島根県立大学同窓会本部事務局（事務局キャリア支援室内） 担当：石倉

TEL 0855-24-2202

FAX 0855-23-7352

メール [y-ishikura@admin.u-shimane.ac.jp](mailto:y-ishikura@admin.u-shimane.ac.jp)



## 吉塚先生・増田先生・豊田先生 定年退職

本学開学以来より、教鞭をとってこられました吉塚 徹先生、増田 祐司先生、豊田 有恒先生の各3名の先生方におかれましては、本年3月31日をもって定年退職されました。皆様方にとってもゼミやサークル、その他活動で大変馴染みの深かった先生方ではないでしょうか。今回3名の先生方より退職に当たってのコメントをいただきました。

### 吉塚 徹 先生より



私が2代目の就職部長になったのは、3期生が入学した2002年の春からです。すでに就職委員会をリードされていた堀内先生の下で、教職員一体となって「できることは何でもやろう」を合言葉に、建学間もない本学の知名度を高めるために県内外へ足を延ばすだけでなく、1年から4年までの本学独自の総合的で多面的な「キャリア支援プログラム」づくりを目指しました。「キャリア形成」科目の設定、学外からの講師・OGOBによるキャリア形成講座、公務員試験、模擬面接、SPI対策、エントリーシートの書き方、その他、当時でも今日でも他大学の追隨を許さない充実した支援プログラムになっています。

同窓会の設立は、こうした本学の支援システムによって全国有数の就職率を誇れるようになった成果を受けて、卒業後社会人となっても本学卒業者としての絆を強めて、後輩たちへの支援ネットワークがぜひ必要だという学内外の世論によるものです。大学時代の友人は一生の友です。同期生だけでなく、先輩・後輩のためにも同窓会活動が一層盛んになるように退職にあたって祈願しております。

### 増田 祐司 先生より



島根県立大学は、ちょうど9年前、日本海を眺望する素晴らしいキャンパスに開学しました。大学設立には構想段階から参加しました。学部の構想、構成等に関して熱心に討議し、まず総合政策学部の大学としてスタートしました。そして、いま大学院北東アジア開発研究科を擁する素晴らしい大学に発展しました。

この島根県・石見の地にはそれまで高等教育研究機関がなく、高度知識情報社会とされる時代にあって高度な知を伝え、また研究する機関の必要性から高等教育機関設立構想が、浮かび上がって来たものです。その前史としてすでに平成5年に島根県立国際短期大学が開学しましたが、さらに平成8年に9月には県立4年生大学の整備基本方針が策定され、これに沿って島根県立大学が設立されました。

平成12年4月、島根県立大学が、開学いたしました。この間、設置準備委員会委員として大学構想、及びカリキュラム編成等の企画には参画致しました。大学設立は、地域社会にとって大変有意義な企画であり、この岩見の発展に繋がることを念じつつ、当時、設立準備に取り組んできたことを思い出しております。

現代の総合政策学は、現代社会が生み出す諸課題の解決に向けての方法的視角、処方箋を提供するものであります。すでに時代は、21世紀、とりわけ後半に進展した国際化・情報化で世界の状況は、急速に変化し、また、複雑化しております。経済のグローバル化、環境問題の進展、広義の安全保障問題など、これまでの細分化された学問研究の手法だけでは、その課題、また課題の全体像を把握することはできません。さらに、この総合政策学的な視点から具体的な対策・政策を立てることは、到底不可能です。私自身は、前任校である東京大学大学院での教授科目、研究テーマを継承して本学でも情報関係科目を担当することになりました。ここに、総合政策学という幅広い視点からの接近が、欠かせません。

本学は、社会科学を中心に人文・社会科学系の視座と手法から研究を進めております。そして、これを発展させることが、ますます必要となっております。21世紀初頭にあつて本学は、学部と大学院の両レベルでの社会人文科学の領域から現代社会のあり方、行方に接近し、相互補完的に研究・教育を行うことが、求められており、期待されております。

### 豊田 有恒 先生より



長い人生には、紆余曲折がある。自分で言うのも変だが、おそらく、本学教員のうちでは、もっとも変わった経歴の持ち主だろう。受験勉強に溺れて、躓いたのが、そもそも人生の失敗のはじまりだった。もうすこし気の利いた人なら、これが、酒に溺れるとか、博打に溺れるとか、ましな動機で、人生に躓くものだが、わたしの場合は、受験勉強にのみこみすぎて、見当違いなコースへ進んでしまい、いったん人生を誤ってしまったのだ。

以後、創成期のアニメのシナリオライター、アメリカSF小説の翻訳家などを経て、小説家として、百冊ほどの著書を書き、ほぼ四十年を過ごしたのち、はじめて就職したのが、本学というわけである。確かに人生は、やり直しがきかないわけではないが、それには、人一倍の努力と覚悟が必要になる。同窓会を期に、人生の意義など、考え直してみるのも、今後の役にたつに違いない。



# 県大NEWS

## 県立大学人事異動（一部）

### 【教員】

#### ■退職（3月31日付）

- ・宇野 重昭 学長（4月以降は本学特任教授）
- ・吉塚 徹 教授（4月以降は本学特任教授）
- ・増田 祐司 教授
- ・豊田 有恒 教授
- ・中平 千彦 准教授（諏訪東京理科大学へ）

#### ■新任（4月1日付）

- ・光延 忠彦 教授（政策評価システム論）
- ・小林 明子 講師（日本語）
- ・金野 和弘 講師（情報社会論）
- ・堀竹 学 講師（民法）

### 【教職員（同窓会関係）】

- ・キャリアセンター長 別枝 行夫 教授
- ・キャリアセンター副センター長 藤原 真砂 教授
- ・理事長付 キャリア担当 堀内 好浩 教授
- ・事務局キャリア支援室室長 福代 美保  
（京谷大輔 前キャリア支援室長は  
県健康福祉総務課へ）

## 学友会



2008年7月19日に島根県立大学浜田キャンパスで行われたオープンキャンパスでは、過去最多となる、高校生・保護者が参加しました。この日は、次の日にAO入試を控える学生が多く、学生の表情は緊張のためか、どこか強張っているように見られました。学生ボランティアから声をかけられると、緊張しつつも、その表情からは笑顔がこぼれていました。

オープンキャンパスでは、数多くのイベントが用意されていましたが、やはりそのなかでも最も人気が高かったのは、学生相談でした。在学生が実際の入試体験から、高校生の悩みや質問に真剣に向き合い、アドバイスをする姿が見られました。高校生側も、学生の意見に真剣に耳を傾け、入試に備えているのがうかがえました。オープンキャンパスに参加した高校生からは、「キャンパスがとてもきれいで驚いた、とてもいい環境で勉強ができそうだ」「大学生の方々がとても親切だった」などの声が聞かれました。



また、昨年度より島根県立大学、島根県立女子短期大学、島根県立看護短期大学が統合され新たに一つの島根県立大学となり、それぞれのキャンパスでは他キャンパスの紹介が積極的に行われていました。松江キャンパスでは、浜田キャンパスの学生がパンフレットを配布したり、会場の一部に設けられた浜田キャンパスのブースで学生相談に応じたりしていました。オープンキャンパスに参加していた学生は、「一つの島根県立大学として各キャンパスの結びつきが深くなることを願いたい」と話していました。

例年に比べ、より充実したオープンキャンパスになったと感

じています。来年も、この流れを受け継いでいきたいと思っています。

（文責：学友会執行委員会会長 2年 松永 優紀）

## 海遊祭



今回で第9回となった海遊祭は10月11日（土）、12日（日）に行われました。前日は台風のような悪天候で、横断幕や装飾物がとれてしまいうハプニングもありましたが、当日は天候も回復し、例年通り開催

することができました。

今回の海遊祭ではSTAND OUT（目立つ）をテーマに、学生、地域の人々、実行委員1人1人が目立てる舞台を設けました。例えば、フリーマーケットや今回からの企画である男装・女装コンテスト、サブステージの設営といったものです。

メイン企画では“遊吟”によるライブや学生によるシンポジウム、吹奏楽部と他サークルとの共同公演を行いました。

どの企画も皆様に楽しんでいただけたようで、実行委員一同、感激しております。

最後になりましたが、海遊祭にご協力して頂いた方々に厚く御礼申し上げます。また、お忙しい中、お時間を割いてお越しいただいた卒業生の皆様、本当にありがとうございました。

来年からも海遊祭がより良いものとなるように、今後とも応援よろしくお願いたします。

（文責：海遊祭実行委員会委員長 2年 中尾 亮介）





島根県立大学H20年度予算・事業計画(実施分含む)

※本紙発行時点では、理事会においてH20年度決算、H21年度予算の承認がまだ行われていないため、ここでは、H20年度予算を記載しております。予めご了承ください。

■平成20年度 収支予算

◆収入

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備 考
項 目				
会費	1,215,000	2,150,000	-935,000	@5,000円×(H20入学生243人)
繰越金	5,781,056	4,004,108	1,776,948	
寄付金	10,000	10,000	0	
雑入	1,000	1,000	0	利息収入等
合 計	7,007,056	6,165,108	841,948	

◆支出

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備 考
項 目				
事業費	457,000	480,000	-23,000	
講演会等	0	0	0	在校生への進路・就職活動支援
福利厚生	0	0	0	
会報作成	66,000	80,000	-14,000	発送費用(1~5期生、大学院生一部約1,000名)
会員名簿	0	160,000	-160,000	
支部設立準備費	30,000	120,000	-90,000	東海支部(仮)設立に伴う準備会の開催経費
支部総会等	361,000	120,000	241,000	会長旅費(東海支部(仮)) 東日本・関西支部・東海支部(仮)総会開催費用(会場代) 案内状発送費用、支部役員会開催費用
総会費	0	0	0	
役員会費	150,000	150,000	0	
理事会費	150,000	150,000	0	会議運営費、費用弁償、発送費用(理事)
幹事会費	0	0	0	
事務費	20,000	50,000	-30,000	
予備費	150,000	300,000	-150,000	
繰越金	6,230,056	5,185,108	1,044,948	
合 計	7,007,056	6,165,108	841,948	

■平成20年度の主な事業計画(実施分含む)

(1) 同窓会運営に関する事業

- ①理事会 2回 (H20. 5. 27、9. 27)
- ②地域支部設立支援事業 (東海・北陸支部 20. 9. 27設立認可)

(2) 島根県立大学の後援に関する事業

- ①在学生への進路・就職活動支援 (キャリア形成講座での講演OB・OG訪問の受け入れなど)  
キャリア形成講座 (1期: 1名、2期: 1名、4期: 7名、5期: 4名)
- ②OB・OG訪問受け入れ (3月31日時点で5名受け入れ)



## 島根県立大学同窓会事務局

(事務局キャリア支援室内)

〒697-0016

島根県浜田市野原町2433-2

TEL 0855-24-2202

FAX 0855-23-7352

E-mail: y-ishikura@admin.u-shimane.ac.jp

### 【編集後記】

H20年度の大きなニュースは、開学以来、県立大学の運営、それから同窓会設立から温かい目でお見守りいただきました宇野学長先生のご退任でした。4月からは本田新学長の体制のもと、新たな船出となります。

また、卒業生用のSNSが完成しました。皆さん方のコミュニケーションの場として大いに活用していきましょう！  
(Y・I)

## 同窓会役員氏名一覧

会 長	堂原 悠里			
副会長	佐々木 眞生			
理 事	久保田 翼	白根 慎介	谷口 正樹	藤々木正幸
	朴 美洋	松崎 幸太	門田 龍太	原田 啓佑
	矢野 龍一			
監 事	大田 美江	兒島 正俊		
幹 事	岩田江身子	越中谷育未	沖津 孝明	久保 彩佳
	古賀 直樹	下手 麻子	鈴木 琢也	中塔 千鶴
	錦織 悠佑	秦 幸代	村上栄太郎	山村 涼
	有田 裕也	上杉 記隆	赤松 未来	
	小山 学	藤江美智子	前田 啓介	三輪 香織
	吉田 友香	犬山 智靖	井上 雅博	奥井 裕介
	佐々木亜弥	瀬尻 真由	柳楽 昌広	福原 香世
	屋敷あゆみ	渡邊 真悟		
	麻生 昌大	江田奈津美	足立 修介	池淵 葉子
	王 暁雪	大場 愛	川上 幸祐	小池 敏弘
	小林 直樹	佐藤 恵	林田 祐也	藤村小百合
	松前 早紀	松本 裕美	村山 幸平	柳瀬 和範
	渡邊 千尋	岩谷 直樹	植田 美冬	遠藤 有美
	大指 春奈	小椋 喜行	影山 仁美	川西 裕子
	金 燦	杉岡 篤志	杉山 敦宣	高島 亨
	戸田 隆徳	榊見 由佳	丸本 光明	三谷 友理

### 事務局から

**★本年度2～3月には3年に一度開催する、第3回同窓会本部定例総会を浜田市内で行うことにしています。今後詳細が決まりましたら、皆様方へもご連絡します。全国の卒業生が一堂に介すこの機会にぜひ参加してください！詳細連絡・案内は後日行います。**

### 会費納入のお願い

島根県立大学同窓会は、平成16年3月19日に設立され、終身会費5,000円で運営されています。既に多くの方々に、納付いただいておりますが、まだ納付いただけていない方は、下記により納付いただきますようお願いいたします。

#### 納付方法① 銀行振込

山陰合同銀行 浜田支店 (支店コード043)

口座番号 普通 3607995

口座名義 島根県立大学同窓会

会長 どうはら ゆり 堂原 悠里

住 所 島根県浜田市野原町2433-2

#### 納付方法② 小為替の送付 (到着後、領収証を発行します)

郵便局で、5,000円分の「普通為替証書」を購入していただき、大学事務局まで郵送していただく。(受取人指定欄、受取人欄には何も記入しないでください。)